

■ 概況

7/27~8/2のNYMEX・WTIIは、49.04~50.17ドルの範囲で堅調に推移した。

8月3日は、新しい材料が乏しい中、方向感覚のない商いが続いた後、反落した。市場の関心は、7~8日にアブダビで開催されるOPEC・非OPEC主要産油国による専門委員会の方行に移っている。9月限の終値は前日比0.56ドル安の49.03ドルだった。

週末4日は、堅調な米国雇用統計を受けて、米国の需要拡大への期待から、反発した。ただ、OPECの7月原油輸出量が日量2,611万バレル(前月比37万バレル増)の本年最高になったとのロイター報道が上値を抑えた。また、ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が765基(前週比1基減)となったが、市場への影響は限定的だった。9月限の終値は前日比0.55ドル高の49.58ドルだった。

週明け7日は、OPECと非OPEC主要産油国の合同専門委員会が開催される中、積極的な商いは手控えられ、一部で利益確定売りが出て、反落した。9月限の終値は前週末比0.19ドル安の49.39ドルだった。

8日は、サウジアラムコが9月の出荷量を減産割当量を上回る日量52万バレル削減するとのロイター報道があったものの、米国におけるシェール増産、リビア・ナイジェリアでの増産の動きもあって、続落した。9月限の終値は前日比0.22ドル安の49.17ドルだった。

9日は、EIAの米国在庫週報で原油在庫が大きく減少し、製油所稼働率も高水準を記録したことから、3日振りに反発した。9月限の終値は前日比0.39ドル高の49.56ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(9月

渡し)は、前週49.30~51.30ドルの範囲で推移した。8月3日は50.70ドル、4日は50.60ドル、7日は51.00ドル、8日は50.90ドル、9日は50.60ドルで推移した。

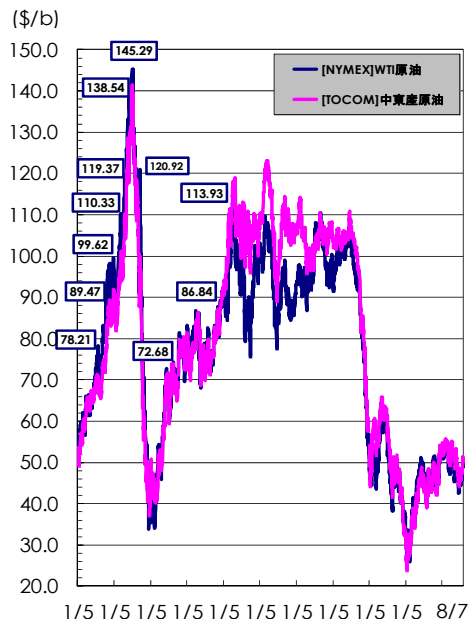
為替は、前週110.27~111.08円で推移した。8月3日は110.77円、4日は110.00円、7日は110.68円、8日は110.75円、9日は110.00円で推移した。

財務省が8日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、7月中旬の原油輸入平均CIF価格は、34,153円/klとなり、前旬を467円下回った。ドル建てでは48.25ドルで前旬比1.19ドル安。為替レートは1ドル/112.53円。

主要元売会社の8月第3週に適用する卸価格は、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートは円高だったが、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、8月7日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値上がりの131.2円、軽油は0.2円値上がりの110.2円、灯油は横ばいの76.1円だった。ガソリンは2週振りの値上がり、軽油は3週振りの値上がり、灯油は2週連続の横ばいだった。この週(8月第2週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、全社0.5円の引き上げだった。

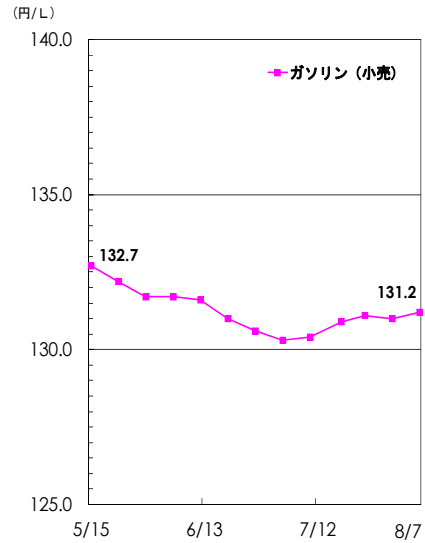
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/30 ~ 8/5	3,712 ▲ 56	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	94.7 ▲ 1.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	8/5	14,183 ▲ 805	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	8/7	50.84 ▼ -0.10	▲ 9.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	8/7	49.39 ▼ -0.78	▲ 6.4
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	7月中旬	48.25 ▼ -1.19	▲ 0.51
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	34,153 ▼ -467	▲ 3,200
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.53 ▼ -1.20	▼ -9.45
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/7	111.68 ▼ -0.33	▼ -8.56



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/30 ~ 8/5	1,053 ▲ 13	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,095 ▲ 168	▼ -	
	輸出	"	14 ▼ -78	▲ -	
	在庫	8/5	1,689 ▼ -56	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/1 ~ 8/7	50.3 ▲ 0.7	▲ 9.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/1 ~ 8/7	50.2 ▲ 1.0	▲ 11.6
		(TOCOM/中部)	8/7	49.4 ▼ -0.4	▲ 10.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/7	131.2 ▲ 0.2	▲ 9.2	

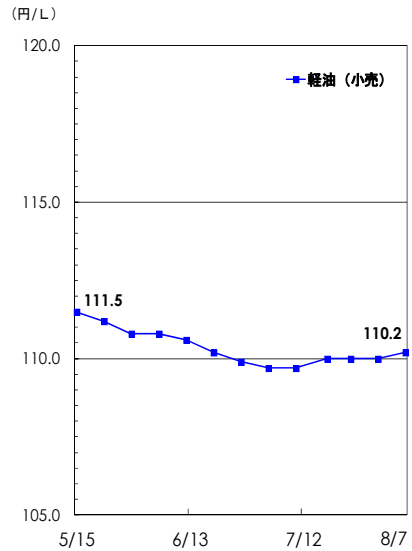
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

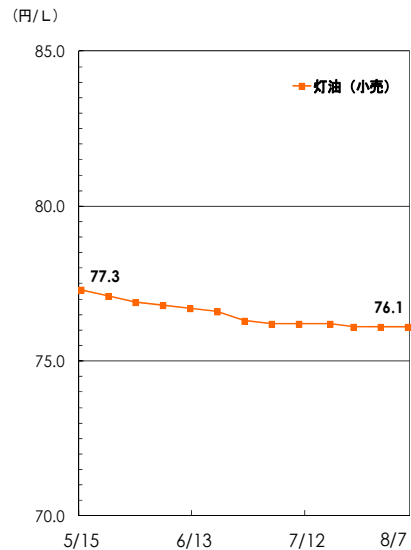
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/30 ~ 8/5	929 ▼ -50	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	653 ▲ 18	▲ -	
	輸出	"	312 ▲ 8	▲ -	
	在庫	8/5	1,427 ▼ -35	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/1 ~ 8/7	48.7 ▲ 0.7	▲ 9.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/1 ~ 8/7	48.0 ➡ 0.0	▲ 11.9
		(TOCOM/中部)	8/7	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/7	110.2 ▲ 0.2	▲ 8.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/30 ~ 8/5	211 ➡ 0	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	139 ▲ 50	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	8/5	1,930 ▲ 72	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/1 ~ 8/7	48.0 ▲ 0.4	▲ 10.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/1 ~ 8/7	48.4 ▲ 0.7	▲ 12.8
		(TOCOM/中部)	8/7	48.0 ▲ 0.9	▲ 12.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/7	76.1 ➡ 0.0	▲ 12.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月9日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油が前週比650万バレル減と市場予想(同270万バレル減)を大きく下回ったが、ガソリン在庫が同340万バレル増と市場予想(同150万バレル減)に反して増加したことから、売り買いは交錯したが、その後、同統計で製油所稼働率が95.3%と2005年8月以来の高水準であったことから、買いが優勢となった。9月限の終値は、前日比0.39ドル高の49.56ドル、10月限の終値は前日比0.37ドル高の49.72ドルだった。

EIAによると、8月7日時点のガソリンの小売価格は前週比2.6セント値上がりの1ガロン2.378ドル(70.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比5.0セント値上がりの2.581ドル(76.1円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは6週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月30日～8月5日に休止したトッパー能力は3.9万バレル/日で、前週に対して5.1万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は371.2万klと、前週に比べ5.6万kl増加。前年に対しては12.1万klの減少。トッパー稼働率は94.7%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては4.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.3%増、ジェット/40.5%増、灯油/0.2%増、軽油/5.1%減、A重油/3.9%減、C重油/1.9%減。今週のC重油の輸入は0.6万kl(前週比10.3万kl減)。軽油の輸出は31.2万kl(前週比0.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では、ガソリン、ジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は109.5万kl(対前週18.1%増)と2週振りに前週比で増加、7週連続で前年比で減少となり、2週振りに100万klを越えた。

ジェット10.6万kl(対前週42.3%減)、灯油13.9万kl(対前週55.1%増)、軽油65.3万kl(対前週2.9%増)、A重油24.1万kl(対前週25.9%増)、C重油23.6万kl(対前週25.3%減)。

(単位:千KL)

	今週 (7/30 ~ 8/5)	前週 (7/23 ~ 7/29)	前週比
ガソリン	1,095	927	▲ 168 (18%)
ジェット燃料	106	183	▼ -77 (-42%)
灯油	139	89	▲ 50 (56%)
軽油	653	635	▲ 18 (3%)
A重油	241	191	▲ 50 (26%)
C重油	236	316	▼ -80 (-25%)
合計	2,470	2,341	▲ 129 (6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月5日時点の在庫は、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは168.9万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては3.9万kl多い。

灯油は193万kl、前週差7.2万kl増。前年に対しては31.8万kl少ない。

軽油は142.7万kl、前週差3.5万kl減。前年に対しては9.8万kl少ない。

A重油は75.7万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては0.7万kl多い。

C重油は212.6万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては23万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (8/5)	前週 (7/29)	前週比
ガソリン	1,689	1,745	▼ -56 (-3%)
ジェット燃料	1,116	1,153	▼ -37 (-3%)
灯油	1,930	1,858	▲ 72 (4%)
軽油	1,427	1,462	▼ -35 (-2%)
A重油	757	781	▼ -24 (-3%)
C重油	2,126	2,082	▲ 44 (2%)
合計	9,045	9,081	▼ -36 (-0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月1日から8月7日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン103~104円台でやや軟化、軽油48円台でやや軟化、灯油47~48円台でやや軟化した。

海上スポット価格は、ガソリン105~106円台で堅調、軽油49~50円台でやや軟化、灯油47~48円台で連日動いた。

先物価格は、ガソリン103~104円台で連日動き、軽油48円台で横ばい、灯油48円台でほぼ横ばいで推移した。元売の卸価格は、据え置きと0.5円の値上げに分かれた

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、先物・軽油を除き、全て値上がりした。週間のガソリン出荷量(輸入分を除く)は、2週振りに前週比増加、2週振りに100万klを上回り、7週連続で前年割れとなった。

8月第3週(8月10日~8月16日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(8月1日~8月7日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.9円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.0円の値上がり、軽油が横ばい、灯油は0.7円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替の円高がこれを相殺したが、原油コストは値上がりとなった。

8月第3週の大手元売の卸価格は、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/1 ~ 8/7)	前週 (7/25 ~ 7/31)	前週比
	レギュラー	50.3	49.6
灯油	48.0	47.6	▲ 0.4
軽油	48.7	48.0	▲ 0.7

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (8/1 ~ 8/7)	前週 (7/25 ~ 7/31)	前週比
	レギュラー	50.2	49.2
灯油	48.4	47.7	▲ 0.7
軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/1~8/7実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.7	▲ 1.0	▲ 0.9
灯油	▲ 0.4	▲ 0.7	▲ 0.5
軽油	▲ 0.7	▶ 0.0	▲ 0.4
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値上がりの131.2円、軽油も0.2円値上がりの110.2円、灯油は横ばいの76.1円だった。ガソリンは2週振りの値上がり、軽油は3週振りの値上がり、灯油は2週連続の横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは29道県、横ばいは7県、値下がり11都府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県の126.2円(前週比0.9円高)、次が埼玉県の126.9円(同0.1円高)だった。最高値は沖縄県の140.0円(同0.6円高)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比2.2円高の青森県(130.6円)、最も値下がりした県は同0.4円安の京都府(132.2円)、横ばいが長

崎県・高知県・山形県・和歌山県・兵庫県・群馬県・広島県だった。

原油コストは値上がりし、元売りの卸価格も0.5円の値上げだったことから、2週振りでガソリン小売価格はわずかに値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。次週(8月14日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/7)	前週 (7/31)	前週比	直近高値
レギュラー	131.2	131.0	▲ 0.2	08/8/4 185.1
灯油	76.1	76.1	▶ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	110.2	110.0	▲ 0.2	08/8/4 167.4

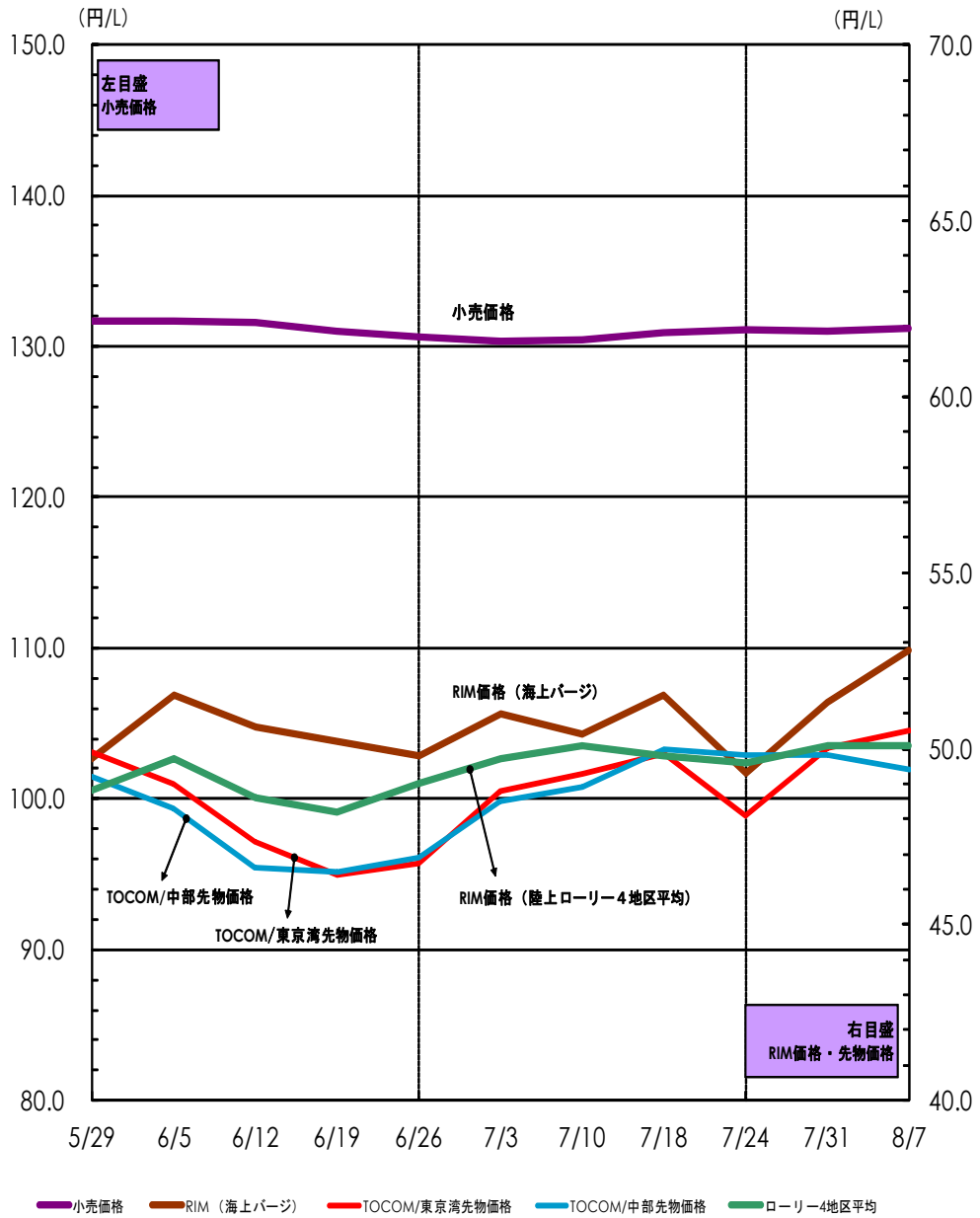
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/5/29 ~ 2017/8/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第19号)の公表は、8/25(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。